

ハチ公飼い主

忠犬ハチ公の飼い主として知られる津市久居元町出身の上野英三郎博士（一八七二―一九三五年）が亡くなってから、二十一日で九十年。農業土木学者として東京帝国大（現東京大）で教授を務める傍ら、一人の愛犬家としてハチをかわいがり、涙を誘う愛のストーリーを後世に残した。節目に合わせ、上野博士の人物像をあらためて見つめる。
（滝田健司、堀内敦子、河郷丈史）

上野博士没後90年 三重大成岡教授 功績語る

ハチ公の飼い主として世に知られる上野英三郎博士は、水田の耕地整理や用排水路の整備などの技術を体系化した「近代農業土木学」の第一人者だった。

日本では一九〇〇（明治三三）年に耕地整理法が施行され、細かく分散した水田を効率的に集約し、用排水路や農道の整備する大規模な耕地整理が進められた。技術が未熟だった当時、上野博士は国内唯一の農業土木学の研究者として学問を

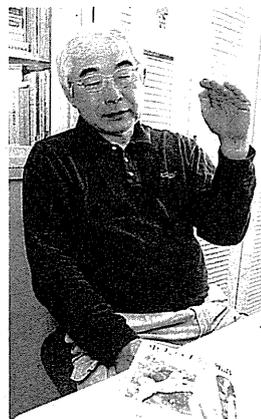


上野英三郎博士（東京大学大学院農地環境工学研究所蔵）

近代農業土木学の祖

体系化し、技術者の育成に力を注いだという。

上野博士の業績に詳しい三重大学大学院生物資源学研究所の成岡市教授（農業土木学）は、富国強兵が唱えられた時代に「耕地整理と技術者の育成を進めなければいけない当時、技術や仕組みを確立させた功績は大きい」と話す。農業土木学会は毎年、新分野の発展に貢献した組織と団体を対象に、上野博士の名前を冠した「上野賞」を贈っている。成岡教授によると、



上野博士の功績を語る三重大学の成岡市教授（津市）

出身の津に国内初の学科

現在の三重大学生物資源学部、大学院生物資源学研究所の前身となる三重高等農林学校が二一（大正十）年に開校した際、上野博士が津市出身地だった縁で、日本初の農業土木学科が設けられた。現在、この学部の卒業生は三重県庁や愛知県庁など官庁に就職するケースが多く、成岡教授は「卒業生は公共事業に対し、責任感を持って仕事に取り組んでいる。その点で、上野博士の精神をつないでいるのではないかと話す。

上野英三郎博士とハチ公
上野博士は一九二四年一月、秋田犬のハチを飼い始め、ハチは、上野博士の送り迎えのため渋谷駅や東京帝国大へ通った。上野博士が二五年五月二十一日に脳出血で急死した以降も、ハチは三五年三月八日に亡くなるまで、十年近く渋谷駅に通い続けた。この様子が新聞で報じられて有名になり、34年にはハチの銅像が渋谷駅前に建てられた。上野博士とハチが並んだ銅像が津市の近鉄久居駅前と東京大農学部キャンパス内に建てられているほか、ハチの出生地の秋田県の大館駅前にもハチの銅像がある。



「上野英三郎博士とハチ公」の銅像と建てる会元代表・多田滋郎さん（津市久居新町の緑の風公園で）

「素晴らしい人 知ってほしい」

銅像を建てる会の多田さん

時にはハチと一杯楽しむ

「上野博士は相当な 田犬を飼いたがって、大好きだった。ハチも 上野博士のために、その愛情に応えてくれ 教え子が生後間もな たのでしたよ」。「上野英三郎博士とハチのた。夜行列車で自宅に銅像を建てる会」元代表の多田滋郎さん（左）野博士は「風邪をひかないように」と、家のことを多くの人に知ってほしい」

一九二四年一月、秋

中日新聞